

【 目 次 】

今月のトピックス

「スマートグリッド」

私の選んだこの一冊

「自分たちの力でできる『まちおこし』 18の地域で起きた小さな奇跡」

政策情報ライブラリー新着図書のご案内

今月のトピックス

・・・スマートグリッド・・・

東日本大震災を受けてエネルギー政策の見直しが議論となる中、「スマートグリッド」への関心が高まっています。「スマートグリッド」の明確な定義はありませんが、電力の供給側と需要側をITなどでつなぎ、電力を効率よく供給する次世代送電網のことをいいます。また、広い意味でこうした電力供給システム全般を指す場合もあります。

これまで電力は発電所から家庭や企業などへの一方向で供給されてきました。スマートグリッドではITを活用したネットワークにより双方向から電力の需給バランスを調整します。

例えば、電力の需要側である家庭に通信機能が付いた電力計「スマートメーター」を設置することで、電力の供給側がリアルタイムで家庭の電力使用状況を把握します。これにより、遠隔操作で家庭の無駄な消費電力を抑制したり、発電所での過剰な電力生産を抑制したりすることなども可能になります。

また、原子力政策の見直しに伴い、自然エネルギーへの期待が高まっていますが、太陽光や風力などの自然エネルギーは、天候や気候に左右されるため供給が不安定となります。そこで、スマートグリッドにより、刻々と変化する需給状況を瞬時に把握し、電力の余剰地域から不足地域への送電や火力による電

力増産などの調整が可能となります。

このように、スマートグリッドは省エネルギーの推進と自然エネルギーの効率的な活用を実現するものとして期待されています。

こうした中、低炭素社会の実現へ向け、スマートグリッド整備への取組も活発になっています。

経済産業省は「次世代エネルギー・社会システム実証地域」として横浜市など4地域を選定し、昨年度からスマートグリッドの実証事業を進めています。このうち横浜市が実施する「横浜スマートシティプロジェクト」では多数の民間企業と協働して、4,000世帯を対象に、家電機器や給湯機器など住宅内のエネルギー消費機器をネットワーク化して自動制御する装置の導入などが進められています。

本県でも「埼玉エコタウンプロジェクト」を進めようとしています。参加する市町村を公募し、住宅などに太陽光を中心とした再生可能なエネルギーによる発電設備やLEDなどの省エネ設備の集中的な導入を進めるとともに、蓄電池を備えた最新のスマートグリッドを整備し、エネルギーの地産地消の実現を目指すことを目的としています。

節電などの省エネの実行は必要なことですが、今夏は過度の節電で熱中症などの健康被害や産業への影響も懸念されました。スマートグリッドにより効率的に電力が供給されれば、快適な生活や活発な産業活動を保ちつつ節電をすることも可能です。さらにスマートグリッドの整備に伴い、地域経済の活性化や雇用の創出など経済的な効果も期待されています。一方で、整備に要する膨大な費用の負担、家庭での詳細な電力使用状況の情報セキュリティの問題などが指摘されています。こうした問題がどのように解決され、整備が進められていくのか、今後の動向が注目されます。(い)

=====

私の選んだこの一冊

「自分たちの力でできる『まちおこし』 18の地域で起きた小さな奇跡」
(木村俊昭 著 / 実務教育出版)

人口減少や高齢化、産業の空洞化など、地域を取り巻く環境は厳しい。都市部でも農村部でも、まちの成長戦略を描きづらいのが現状である。

そんな中、地域活性化の事例を交えながら、地域を元気にする「秘訣」を分かりやすく解説してくれるのが本書である。

著者は北海道小樽市の元職員。職員時代に、数々のまちづくりを手掛けた実績を持つ、情熱と行動力の人だ。現在は、自らを「地域活性の汗かき人」と評し、講演や現地アドバイスなどで全国を奔走している。本書で紹介されている

18の事例も、著者が実際に関わりを持ったプロジェクトだ。

例えば、休耕田を利用して地元で採れた取れた米と、地元のうまい水を使い「柏倉門傳（かしわぐらもんでん）」という地酒を造った山形市西山形地区の事例。また、スナックのママさんに「観光大使」として、お客さんにまちの歴史や文化、観光の穴場スポットなどを紹介してもらった北海道小樽市の事例など。そこで生活する人たちの知恵と想いが感じられるキラリと光る「まちおこし」だ。

著者は、地域活性化で重要なのは「部分最適化（部分的に最もよい状況）」ではなく「全体最適化（全体的に最もよい状況）」と強調する。一部の地域、一部の関係者のみの事業をバラバラに展開しても、効果は一過性のものに終わってしまう。

「部分」をつなぎ、うまく「全体」を最適化させる創意工夫が成功の鍵と説く。

そこで、「まちおこし」には、関わる人を最大化することが重要と指摘する。多くの人を巻き込めば、自然と全体最適化の発想でプロジェクトがデザインされるという。

先の山形市の地酒の事例でも、地元の小学生が田植えに参加したり、新酒発表会では女性の皆さんが地元料理を紹介したり、多くの人々が関わっている。こうすることで、全体最適化が達成でき、市民の一体感も生まれ、楽しさも広がるのである。

最後に、まちづくりを左右するキーパーソンとして、行政、商工会議所、商工会、農協、漁協、地域金融機関、近隣の大学、小中学校の教員などを挙げている。

特に、小・中学校や高校の先生は、地域の次代を担う子どもたちに毎日接し、地域のための汗を流している人たちに出会う機会をつくったり、まちの魅力を直接語りかけたりすることができる重要な存在と位置付けている。見落としがちだが、大事な視点だ。

このほか、人材の育成と地元定着率の向上、地域で汗する人を評価する仕組みづくり、新しい産業・文化のおこし方など、本書には地域活性化のヒントが随所に詰まっている。自治体職員の方には是非参考にしてもらいたい1冊である。（ほ）

11月の新着図書は次の5冊です。

『地域資源を活かす温暖化対策 自立する地域をめざして』

和田武、新川達郎、田浦健朗、平岡俊一、豊田陽介、伊与田昌慶 / 著
学芸出版社

『危機管理を実践する事業継続マネジメント BCPを有効に機能させるために』

村上治、田附喜幸、中野孝 / 著 オーム社

『文化財の価値を評価する 景観・観光・まちづくり』

垣内恵美子 / 編著 岩本博幸、氏家清和、奥山忠裕、児玉剛史 / 著 水曜社

『平成23年度版 全国都市の特色ある施策集 ひとつくり・まちづくり

～明日への挑戦～』

全国市議会議長会 / 編 ぎょうせい

『エンジニアリング・ファシリテーション

- 話し合いをうまくまとめるコミュニケーション・スキル - 』

大石加奈子 / 著 森北出版

蔵書の閲覧・貸出は、構成団体職員の方ならどなたでもできます。

詳しいご案内、蔵書一覧は

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/82network/02/Library.htm>

=====

ご意見・掲載希望

今月号のeシンキングはいかがでしたか？ご意見・ご感想がありましたら
下記担当までお寄せください。また、各コーナーでは皆様からの参加レポート
などの情報提供を随時募集しています。「これは記事になるかな？」という
ものがありましたら、お気軽にご連絡ください。

[eシンキング / 毎月15日発行]

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部（石橋・村田）

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2-24-1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp>

E-Mail: jinzai03@hitozukuri.or.jp

=====